

## 平成 28 年度の重点的な取組に対する対応について

### (1) 地域や本県産業を担う人材の育成

- ① コミュニティ・スクールの取組の充実や小中連携の強化、県立高校での導入など、社会全体で子どもの育ちを支える環境づくりの一層の推進

- 設置率 100%となる予定のコミュニティ・スクールを核とし、地域協育ネットの仕組みを生かしながら、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを支援する「やまぐち型地域連携教育」の取組を強化する

#### 【取組の現状】

- 平成 28 年 4 月にコミュニティ・スクールの市町立小・中学校の設置率が 100%（全国は 9%）となるとともに、全市町への山口 CS コンダクターの配置等により、全県的な推進体制の更なる強化を図っている。
- 地域における家庭教育に係る相談支援の充実・強化を図るため、市教委や福祉部局と連携して、訪問型支援のモデル的な取組を推進している。
- 県立学校へのコミュニティ・スクールの設置について、これまでに県立高校 3 校及び特別支援学校 2 校へ導入した。

#### 【課題及び今後の対応】

- 「やまぐち型地域連携教育」の取組を一層推進するため、学校運営協議会等の充実を図るとともに、首長部局（福祉、まちづくり等）と連携して、地域の活性化につながる学校づくりに取り組んでいくことが必要である。
- 訪問型家庭教育支援の取組の成果等を蓄積しながら、各地域における支援体制の構築を促進する。
- これまでの検証等を踏まえ、今後の県立学校へのコミュニティ・スクールの導入の検討が必要である。

- ② ふるさとやまぐちを愛する心を育て定住意識の醸成につながるよう、小・中・高の各段階に応じた、郷土の理解や誇り等を育む教育を推進

- 郷土に誇りと愛着を持ち、自信と希望を持って、たくましく生きていく、ふるさとやまぐちを愛し主体的に社会に参加する子どもたちを育成する

#### 【取組の現状】

- 山口県の先人の立志やチャレンジ精神等を現地学習や専門家の説明等を通じて学ぶ三世代交流教育講座（年 3 回）の開催や、広く県民が先人学習に取り組める WEB ページ「平成の松下村塾」の開設、地域にゆかりのあるアナウンサー等外部人材を講師とする学習会の開催などを行っている。

#### 【課題及び今後の対応】

- 三世代交流教育講座の開催継続、先人関連情報を広く発信するための WEB ページの充実を図るとともに、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した家庭や地域との連携を推進し、ふるさとやまぐちの心に学ぶ道徳教育や体験活動の一層の充実を図る。

③ 児童生徒が将来の職業等の選択幅を広げることができるよう、本県産業や県内企業への関心と理解を深める教育活動の強化

- 児童生徒の社会的自立を支援するとともに、故郷に愛着を持ち、地域に貢献する子どもたちを育成するなど、キャリア教育の充実を図る

**【取組の現状】**

- キャリア教育について、「推進会議」により学校、家庭、地域、産業界が連携した全県的な推進体制の強化を図るとともに、「実践セミナー」において小・中・高校等の教員や関係者がともに研修を行い、連携強化と一層充実した実践に努めている。
- 子どもの教育活動を支援する地域の事業所や団体で構成される「やまぐち教育応援団」の活用や、各種インターンシップの実施など、体験的なキャリア教育に取り組んでいる。

**【課題及び今後の対応】**

- 今年度2業種で先行実施した「特別支援学校技能検定」の本格導入等（残り3業種を段階的に導入）により、特別支援教育において、自立と社会参加に向けたスキル獲得に係る支援の充実を図る必要がある。
- 「地域活性型インターンシップ」の一層の推進等により、普通科高校の体験活動の充実、促進を図る。

④ 児童生徒が自らの未来を主体的に切り拓いていけるよう、主体的に学習する態度や確かな学力の育成

- 全ての児童生徒の学力の向上を図るため、学力や学習状況の客観的、経年的な把握・分析を行い、課題解決に向けた指導方法の工夫改善や、学校・家庭・地域が一体となった取組を推進する

**【取組の現状】**

- 年2回の学力検証改善サイクルの確立や、家庭・地域と連携・協働して取り組む学習指導及び家庭教育支援の取組等により、全国トップクラスの学力をめざす取組の充実を図っている（小・中）。
- 生徒の主体的・協働的な学びであるアクティブ・ラーニングの推進など、今後の大学入試改革等に的確に対応できる取組を進めている（高）。
- 拠点校指定による体験・探究を重視した教育や、「科学の甲子園（中、高）」山口県大会の実施など、質の高い継続的な理数教育に取り組んでいる。

**【課題及び今後の対応】**

- 教員の授業力の更なる向上や、学校、家庭、地域の連携による、学力向上の取組の一層の充実を図る（小・中）。
- 平成29年度より探究科を導入する2校（宇部高、下関西高）における重点的な取組をはじめ、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の推進が必要である（小、中、高）。

## (2) 若者の県内定着・還流の促進

- ① 高校生の県内就職と地域産業を担うスペシャリストを育成するため、地元企業と連携し、企業ニーズに即した実践的な職業教育等を推進

- 将来の県内産業を支える人材を育成するため、高校の実践的な知識・技術の習得を図るとともに、地域産業等への理解と地域貢献に対する意識を高め、生徒の主体的な県内就職を促進する

### 【取組の現状】

- 専門高校等生徒による地域、地元企業と連携した実践的な研究活動の実施や、産業現場における職業人を講師とした意見交換など、地域や産業界と連携した学習活動を推進している。
- 県内就職サポーターの配置など、組織的な就職支援に取り組んでいる。

### 【課題及び今後の対応】

- 地域や産業界と連携した実践的な職業教育等の一層の推進を図る。
- 平成30年度に本県で開催される全国産業教育フェアについて、準備委員会の設立など、翌年度の開催に向けた準備を着実に進める必要がある。

- ② 高校生がその能力や意欲に応じ、県内大学等への主体的な進路選択につながるよう、高大連携による共同研究や相互交流等の推進

- 高校生の県内進学者数の増加に向け、県内大学等と連携して県内大学がもつ魅力や良さについて、高校生や親の理解を深め、高校生の主体的な県内大学等への進学を促進する

### 【取組の現状】

- 県内大学生と高校生とのディスカッションの実施やオープンキャンパスへの参加など、高校生が県内大学の魅力やよさを知るための取組を県内大学等と連携して実施している。
- 県内進学情報を高校生や保護者に発信するため、県内37大学・専修学校等のオープンキャンパス情報をまとめた「オープンキャンパスマップ」や、県内大学等の魅力等を掲載した「進学ガイドブック」を配布する。
- 県内進学を促進するため、大学や仕事の魅力等を県内高校生に周知するフェアを、県内大学等と一体となり開催する。

### 【課題及び今後の対応】

- 県内大学等への主体的な進路選択につながるため、高大連携の推進により、高校生と大学生との相互交流等の一層の充実を図る必要がある。
- 高校生の進学に関して、地域間競争が激化する中で、県内大学等の魅力や良さについて、県内高校生や保護者の理解を深める必要がある。

③ 大学生等の県内就職・定着の促進に向け、大学等と県内企業とが連携を強化し、本県企業の特色や魅力を学生に直接伝える機会の拡大

- 大学や企業等との連携を強化したインターンシップ事業の推進や企業セミナー等、大学生等が県内中小企業の魅力に触れる機会を拡大することで、本県企業の特色や魅力発信を強化する

**【取組の現状】**

- インターンシップへの参加促進のため、今年度から、参加学生への県の旅費助成を開始したことから、参加申込数が大幅に増加した（前年度比26%増）。また、マッチングコーディネーターの増員により、ほぼ昨年度並みのマッチング率を確保した。（この夏に800人超の学生が参加予定）
- 学生が早い段階から県内企業の魅力等を学ぶことが有効であることから、低学年の大学生を対象に、県内企業の経営者等を県内大学に講師として派遣する企業セミナーを6月から開催。今後、各大学で順次開講。
- 就職に影響力を持つ大学・高校等の学生・生徒の保護者及び大学等の就職担当者を対象として、県内企業に対する理解を深めるためのバスツアーを9月から順次実施予定である。

**【課題及び今後の対応】**

- インターンシップへの申込学生が増加した一方で、受入事業所数は微増にとどまっており、引き続き学生と企業のマッチングの促進が求められる。
- 今後も県内就職・定着を促進するため、県内・県外の学生に対して、県内企業の魅力や就職関連情報を様々な方法により、しっかりと届けていく。